

---

# 失恋記

sprint

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

失恋記

### 【Zコード】

N6431D

### 【作者名】

spring

### 【あらすじ】

「失恋」。ほとんどの人が経験した事があるだろう。辛く、悲しく、とても切ないもの。誰もが思い出したくない過去。そんな私もたった今、フラれてしまった。初めて勇気を出して言つ事が出来たのに・・・。

## プロローグ（前書き）

初めて女視点に挑戦です。

普段よりもさらに読みにくくなってしまつと思ひますがどうか最後までお付き合いくらい。

## プロローグ

「好きですーー！ 付を合ひてこそーーー！」

といついついつつてしまつた。

一瞬で終わる言葉なのに異常に緊張する。

手に汗は搔くし背中に冷や汗は搔くし心臓はバクバクだし・・・。

「「めん・・・俺、好きな人いるんだ・・・」

(えつ?)

思いを伝えられた喜びに浸れたのもつかの間。

そり、私はこの瞬間失恋してしまったのだ。

## Episode 1・初めての失恋（前書き）

設定では、LRの予想が当たったのが初めてとこの設定になってしまっております。

一応、モテキャラにはしない予定です^\_^；

## Episode 1・初めての失恋

今、ちよつと告白をしたばかりの女子と告白されたばかりの男子がいる。

女子の名前は水野楓

他でもない「私」だ。  
一応中学生やつてる。

一方、私の目の前にいるのが望月翔太  
・・・私がずっと好きだった先輩。

運動も勉強もバツチリできて尚且つルックスも良い。  
所謂、モテモテキャラ。

もちろん性格も良くてキャラキャラなんてしてない。  
寧ろ爽やかなイメージが強すぎていくらモテても誰もそんな事を言つ  
人はいない。

そんな望月先輩の事がずっと好きだった。

バレンタインである今日、勇気を出して告白したんだ。  
けど、結果はこの通り。

まあ、当たり前なんだけど。。。

先輩みたいな人が私なんかに振り向いてくれるわけないもん。  
こんなすごい人が振り向いてくれたら奇跡。

そりや、私がすっごく可愛くて勉強とかもバリバリに出来てたら別  
なんだろうけど。。。

頭の中ではわかつてた。

でも体と心がついていかない。

どうしてもこの気持ちを抑える事が出来なかつた。

なんで？

最初から傷つく事がわかつてゐるなら告白なんてしなければいいのに。  
告白したつてダメなものはダメなんだよ。

ちゃんと先輩は答えてくれたんだからお礼言わないと。

「いえ、ちゃんと言う事が出来てよかったです。私じゃダメな事も  
わかつてましたし。。」

なんて嫌な女なんだわ。

これじゃいかにも「同情してください」って言つてこると同じじ  
やん。

「なんだかうつむかれるんだよね。

泣いたら先輩を困らせるだけなのに涙が出てくる。  
本当は堪えたいのに堪えることが出来ない。

「うん、嬉しかったよ。ありがと、『めんね。』

先輩、微笑んでくれてる。  
こんな嫌な奴なのに・・・。  
なんでこんなに優しくしてくれるの？

『うせだつたら思つてきつつてくれればいいの。』

これじゃまた好きになつちやうよ・・・。

先輩の事、諦められなくなつちやうよ・・・。

失恋ってこんなに悲しいものなんだね・・・。

## Episode 1・初めての失恋（後書き）

季節が季節なんで季節感を出してみました。

この一人や他の登場人物の詳しい紹介は次に書きたいと思います。

## Episode 2・すつきつしない一日

次の日の朝。

泣きながら寝ちゃつたみたい。  
枕が少し湿っている。

普段なら気持ちの良い朝なのだろうがテンションは最低。  
家族のみんなから「風邪でも引いたの?」と聞かれる。

もづ、うざつたいな。  
ほつといてくれればいいのに。  
私は無言で学校へ出発する。

玄関を開けると幼稚園からずつと一緒ににじわきしんじ西脇信一にしづきしんじと宮部由梨みやべゆりが待っていた。

「楓、遅い! 早く行こ!」  
「そうそう、早めにな。」

この二人とは幼稚園からずつと一緒に。

恋バナとかも普通にするし、お互いの悩みも相談してる。

相談、してみようかな……?

信一はサッカー部に入つて正真正銘のサッカー馬鹿。  
サッカーの話をさせるとこつちが相槌を打たなくともマシンガント  
ークが炸裂するし。

でも普段はクール。悪く言えば冷めてるけど。

サッカーの事しか考えてないのに見えるけど可愛い面とかあって面白い。

そつそつ、意外と頭良くて何気に成績は上位組。

由梨は見た感じ超お嬢様キャラ。

なんというか凄い人特有のオーラが出来ちゃってる。  
何もしゃべらずにボーッと立ってるだけで絵になる感じ。  
でも、全然堅苦しくなくてメチャクチャ元気。  
あまりのハイテンションさに私が疲れちゃう時もしばしば・・・。  
私とは大違いでモテモテ。

信一曰く男子の中では「高嶺の花」と呼ばれてるらしい。  
部活のバドミントンでも部長をやっているしね。

そんな中で私は至って普通。

あ、ちなみにテニス部。

告白されたのだって一回か二回だし男子からチヤホヤされるわけでもない。

勉強だって平均点くらいの点数がつらつらと並んでるくらい。

テニスは地区大会止まり。

何かに秀てるというのが無いんだよね。

この一人が凄すぎでいつも私は「引き立て役」っぽくなつてゐる。  
まあ、実際そうなんだろうけど。

二人といつもと変わらぬ会話をしてゐつたりに学校に着いた。  
よく考えたら今日、一時間目から数学じゃん。

図形の証明とか嫌だなー。

それに、今は昨日の事で頭が一杯になつちやつてるし・・。

・・・今度、由梨と信一に聞こ。

本当にこんなで高校いけるのかな。

一日の授業が異常なほどに長く感じたがなんとかすべて乗り切る事が出来た。

全部右から左だつた気がするけどしうがないかな。

今日は部活無いから一人に相談してみよ・・。

私は信一と由梨に相談する事にした。

## Episode 2・すつきしない一日（後書き）

間が空いてしまって申し訳ないです。  
気長に読んで頂けると嬉しいです。

またまた主人公の周りにはすごいメンバーが多いですが（笑）

## Episodes 3：最高の幼馴染

信一と由梨に相談する事にした。

（でも、どうやって切り出せばいいかなあ・・・。）

歩きながら一生懸命考える。

（やつぱし恋バナから入るかな？）

今はちょうど三人で帰ってる時だ。

変に誰かに聞かれる心配もない。

（よし、持ちかけてみよう。）

「ねえねえ、二人とも今好きな人とかいる？」

「い、いきなりなんだよお前つ。・・・いないけど。」

真っ先に答えたのは信一の方だった。

普段はクールな信一が珍しく動搖してる。

「うーん、一応いるかなー。まあ今は内緒だけどね。楓は？  
何もかも見透かしているかのようになりを細めて由梨が言つ。  
(今がチャンス！)

「・・・いたけどフラれちゃった。」

「えつ？！」

二人揃って声を上げる。

特に驚いていたのは信一だ。

（そんなに恋しないみたいに見えるのかなあ・・・）

心の中ではそう思った。

「そんなに驚かないでよつ。昨日ね。」  
「だから楓、今日元気なかつたんだ。」

由梨が納得したように頷く。

「で、相手は誰？」

興味津々に問い合わせてくる信一。

「・・・望月先輩。」

「あの人かあ。結構モテてるよなー。つと、『ごめん。』  
「つうん、いいの。ほとんど諦めてたし。」

言い訳ともとれる発言。

といつか負け惜しみの方が意味合いとしては近いかもしねない。

自分でわざわざ思つたところに信一がツツ「ハ」を入れた。

「でもさ、最初から諦めてたら告白なんてしないだろ?」

ズキッ。

心に何かが突き刺さる。

確かに最初から諦めてたわけではない。

むしろ諦められるのであれば、とつくで諦めてていい。

矛盾した事を言つててるのは確か。

諦めたいけど諦められない。

そんな自分に腹が立つたのかわからぬけど泣いてしまった。

「諦めたいよ・・・でも、諦めきれるわけないじゃん・・・」

「こりで泣いたつて二人を困らせるだけ。

何の解決にもならない。

頭ではわかってるのに体が言つ事を聞かない。

私のせいで少しの間気まずい雰囲気になつてしまつた。  
そこに先ほどまで黙つていた由梨が口を出す。

「なら、忘れられるまで好きでいてもいいんじゃない?」

思いがけない答えだつた。

第三者から見れば簡単に出る答えなのかもしれないが私の中には「諦める」という選択肢しかなかつたから。

「で、でも先輩に迷惑じや・・・」

信一も由梨も呆れたよつたため息をつく。

「せつや、ずっと付きまとつたりしたら迷惑だりうなび想つへりうな  
なら平氣だる。」

「やつやつ。少し時間はいるかもしないけど、時間がたてば忘れられるってー。」

「少しごり笑つて私を励ましてくれる。

本当にこの一人に相談してよかつた。

「ありがと・・少し距離を置いても、一度落ち着いて考えてみる。」

家に帰つてからずっとその事ばかり考えていた。

距離を置く、って言つても元々距離が近かつたわけじゃないし・・。意識して会わないよつこ、って言つても変に意識しそうぢやつて逆に変。

どうする事も出来ない。

ずーっと考えながら部屋で本を読んでいると携帯が鳴つた。

（誰だらか・・あ、信一からのメール。）

「あんまり考えすぎない方がいいよ。他の事に気を紛らわしたりしあつするとか。」

信一・・。

心配してくれたんだね。

本当に感謝してる。

その事を素直にメールに打ち込んで送信した。

(ふう。)

一息ついた。

肩の力が一気に抜ける。

やつぱりフられた後つてのもあつて心にポツカリ穴が空いたみたい。

ずっと胸のあたりがもやもやしたまま。

(先輩の好きな人・・・誰なんだろ。)

羨ましく思う気持ちとそれを妬む気持ちが入り混じっている。  
ずることはわかっているけど、どうしてもそう想ってしまう。

私・・・本当に先輩のこと、まだ好きでいいのかな・・・？

## Episodes3：最高の幼馴染（後書き）

こちらは完全に不定期更新になりそうです（汗  
あまり構想を練らずに書いたのが間違いでした＾＾；

気長にお待ち下さい。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n6431d/>

---

失恋記

2010年12月12日00時30分発行